

## ■ 編集後記 ■

日本通訳翻訳学会 (JAITS) の「翻訳研究育成プロジェクト」による、ウェブ版『翻訳研究への招待』14号をお届けします。本号より締め切りを2月末日(従来通り)と8月1日の年2回とさせていただきます、今号の締切は昨年より1か月前倒しとなりましたが、多くのご投稿に感謝いたします。また今号より、海外の文献データベースへの掲載を促して、日本・日本語に関連する通訳翻訳研究を世界中のより多くの人たちに知ってもらうという意味で、タイトルだけでなく著者名にも英文表記を付すことにいたしました。

本号では創刊以来、初めて特集を組みました(「1970年代日本における翻訳と Translation Studies」)。日本における翻訳をめぐる議論が、欧米において Translation Studies (TS) が始動したとされる1970年代において、並行するかのよう隆盛し、「多様なジャンルの実践翻訳家、言語学者から人類学者、そして思想家までが翻訳に関するさまざまな議論を行っていた」と、今回の企画立案者である佐藤=ロスベアグ氏は述べています。だとすれば、「TSが21世紀に日本に遅れて入ってきたという言説が果たして的を射ているのか……なぜ1970年代に芽生えたTSが日本で育たなかったのか」という問いは、70年代のあの熱気を知る年代に属する者でなくとも、誰しも抱く問いでしょう。その答えが今回の特集によって多角的に検討されていると言えます。今回の特集をめぐる、スリングともいえる問題提起をもとに、さらなる議論が盛り上がることを期待します。

今号は特集企画のみでなく、5本の投稿がそろい、にぎやかな誌面となっています。次号もふるってご投稿をお願いいたします。また本プロジェクトの中長期的活動目標として、「翻訳論アンソロジー現代日本編」「翻訳論アンソロジー外国編」「翻訳関連文献集成」があります。これは言語を問いませんので、英日以外の言語を専門とする方も、ぜひ積極的にご参加ください。

2015年9月30日

『翻訳研究への招待』編集委員会